

カタツムリ
の話②

今回は、わがまち西原に住んでいるかたつむりの種類を紹介しましたが、その呼び方はどのようなルーツがあるのでしょうか？

民俗学者・柳田国男は、日本各地の方言から、かたつむりの呼び方を五系統（一八七種類）に分け記録しています。

カタツムリ系

現在の共通語であるが、「カタツムリ」はもともと京都付近の方言。政治や文化の中心地の方言が共通語となる例。かつての中央の方言は、日本列島の端の青森・秋田・山形で「カタツムリ」「カサツブリ」などと呼ばれています。それは編み笠に似た貝、笠を着た貝を意味しているようです。

ツブリ・ツブラ系

カタツムリよりも古い系統。「ツブラ」は丸いものを指すようで、人の頭を「おつむ」といったり、丸い土器を「ツボ」といったりする。デテムシ・デテンムシ系

全国でも広範囲にわたる日本の中央部を領域とした最新の方言。「殻から出よ、出よ」という子どもの言葉から生じたようです。

マイマイ系

現在の文化の中心地東京地方の方言で、学術上の和名にも採用されています。マイマイは、貝の渦巻き状のすじの「巻き巻き」からきているようです。

ナメクジ系

大昔、カタツムリとナメクジを区別せず呼んでいたと思われ、「ナメ」は又ル又ルした状態をさします。この系統は、日本列島の端に追いやられていることから、最も古い方言と考えられています。

ところで、西原の方言で、カタツムリは「チンナン」と呼ばれています。『沖縄今帰仁方言辞典』によれば、カタツムリの今帰仁方言「チンナミ」は、「しただみ（小さい貝の古語）」と関係のある語、と述べています。

現在、何気なく使っている「かたつむり」ということばひとつとってみても、いろんなルーツがあり、もともと方言として使われ、なおかつ古語になってしまっていることばだったりするんですね。

おっと、遅ればせながらグスーヨー、チューウガナピラなんて今さらながら方言でごあいさつなのでした。